

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 9 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 9 月 3 0 日)

調査期間：平成 1 7 年 9 月 1 5 日～ 2 2 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 7 9 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 8 製造業 6 2 3 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 8 サービス業 6 0 8

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年9月調査結果のポイント】

業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大、依然、不透明感ただよう

9月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（28.9）よりマイナス幅が1.9ポイント拡大して30.8となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、卸売を除く4業種でマイナス幅が拡大した。業況好調、売上増加という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、先行き不透明感や客単価の下落など消費の低迷を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「個人住宅の需要が旺盛であり、今後、業績が好調な民間企業の建設投資も期待」（一般工事）との声がある一方、「公共事業の発注も僅かで、業者間の過当競争により厳しい状況が続いており、業況は好転していない」（管工事）との声に加え、「今後、原油価格高騰の建築資材価格に対する影響が心配される」（一般工事）と原油価格高騰による影響を訴える声も寄せられている。

【製造業】では、「赤字企業の割合が減少する一方で、黒字企業の割合が増加しており、中小零細企業にも大企業の好況ぶりが波及している」（鉄素形材製造）との声がある一方、「小売店の廃業や売上減少の影響を受けて受注量が減少しており、大型店からの受注量もそれを補うほどは増えていない」（パン・菓子製造）といった声や、「製造コストのうち大きな比重を占める燃料費の高騰により、出荷量増加が収益増加に結びつかず厳しい状況にある」（他の窯業・土石製造）と原油価格高騰による影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「愛・地球博」の盛況で隣接県は低迷していたが、開催期間の終了も近づき、見通しが少し明るくなってきた」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「消費低迷に加え、原油高騰による仕入コストと輸送コストの上昇により採算が悪化」（各種商品卸売）、「荷動きがやや活発になってきたが、収益面では未だ好転せず、厳しい状況に変わりはない」（衣服・日用品卸売）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「今月中旬までは昨年の売上高を上回っており、後半の売上に期待している」（百貨店）との声がある一方、「原油価格の高騰は包装資材の仕入コスト上昇につながり、採算を悪化させる要因となるため、今後の原油価格の動向が懸念される」（百貨店）、「来客数は横ばいながら、消費者の財布の紐は固いため、客単価が低下し売上が減少している」（商店街）といった声が寄せられている。

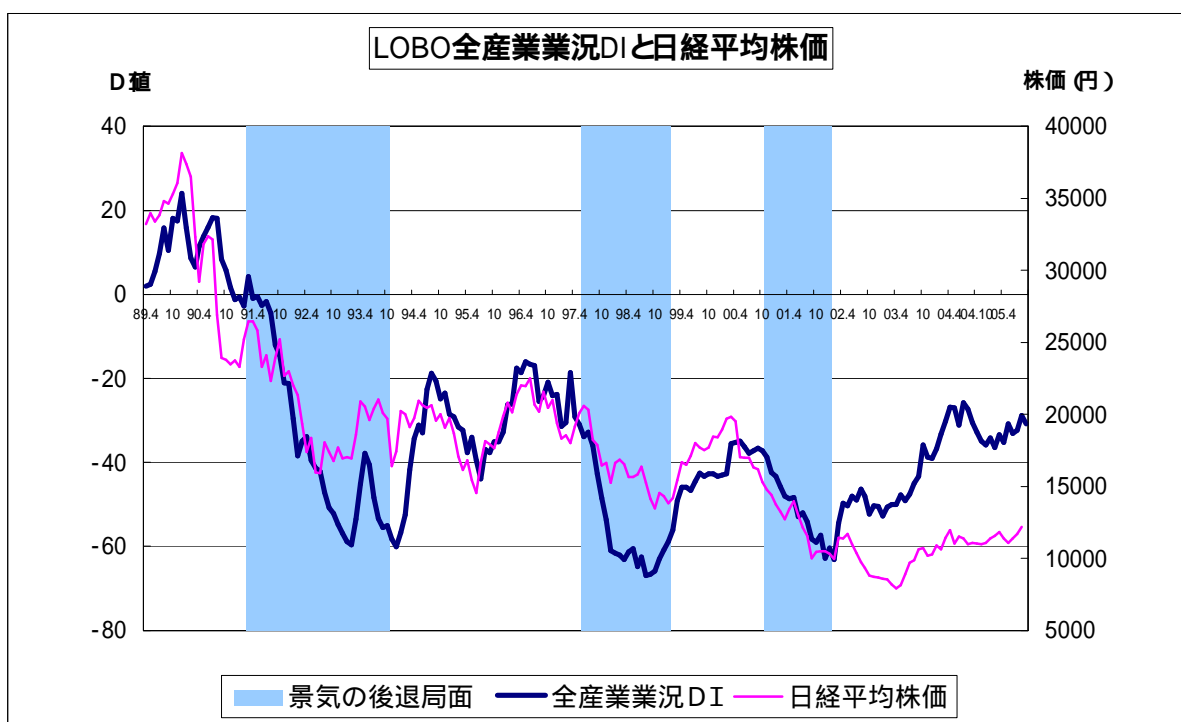
【サービス業】では、「愛・地球博」が終了し、これから多客期に向かうため、先行きは現在より好転する見込み」（旅館）との声がある一方、「愛・地球博」がまもなく終了するが、その後の業況がどうなるのかが心配」（食堂・レストラン）、「軽油価格高騰により、業況は依然として厳しい」（運送業）、「銭湯の湯を沸かす燃料の仕入コストが上昇しており、厳しい状況」（公衆浴場）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、卸売で縮小したものの、他の 3 業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 1.2 ポイント拡大して 24.6 となり、5 カ月ぶりに拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造で縮小したものの、他の 3 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 1.3 ポイント拡大して 30.8 となり、3 カ月ぶりに拡大した。

向こう 3 カ月(10 月～12 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース)が 24.4 と、昨年同時期の先行き見通し(23.2)に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、先行き不透明感や客単価の下落など消費の低迷を訴えるコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（28.9）よりマイナス幅が1.9ポイント拡大して30.8となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

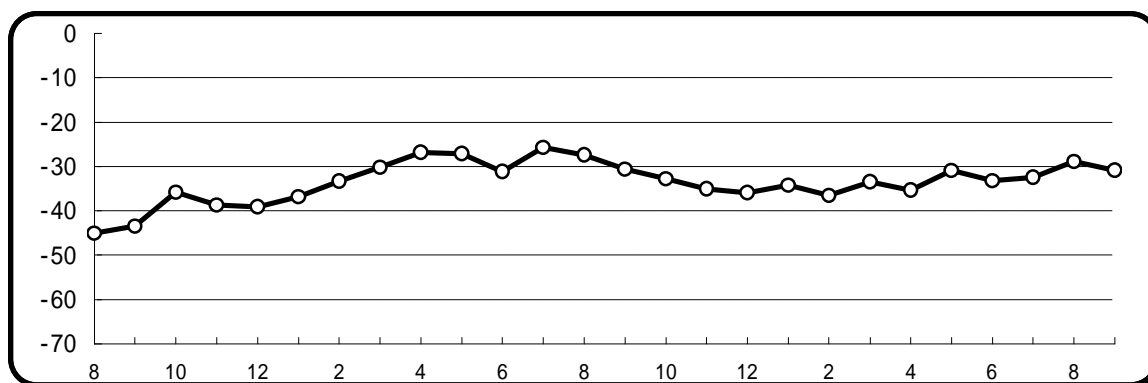
向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が24.4と、昨年同時期の先行き見通し（23.2）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	35.3	30.9	33.2	32.4	28.9	30.8	24.4 (23.2)
建設	46.0	42.2	44.7	43.2	37.9	41.0	39.3 (35.9)
製造	24.6	23.8	23.9	21.2	18.5	21.2	15.7 (15.3)
卸売	39.6	37.7	40.2	38.5	35.3	29.3	14.8 (19.5)
小売	37.8	31.0	30.8	33.9	31.2	33.7	24.6 (26.5)
サービス	35.1	28.7	35.2	33.1	29.0	31.3	27.5 (20.8)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年9月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

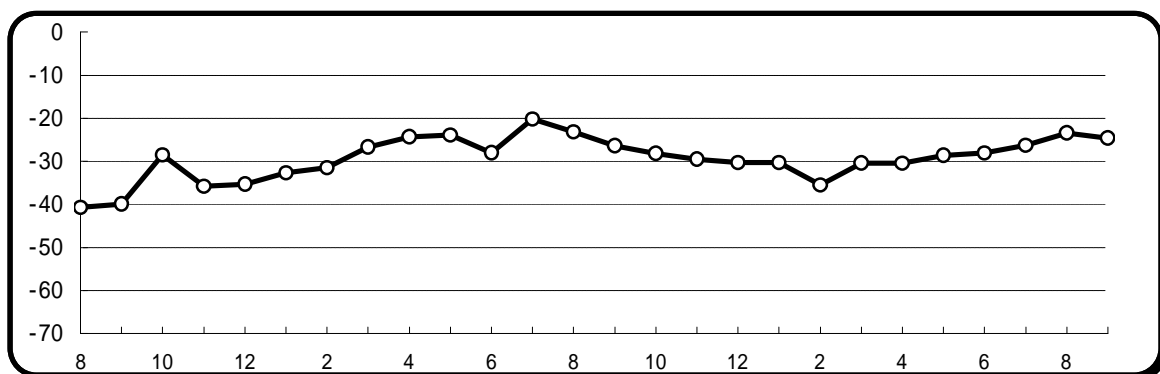
売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、卸売で縮小したものの、他の3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は1.2ポイント拡大して24.6となり、5カ月ぶりに拡大した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が16.1と、昨年同時期の先行き見通し(17.5)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	30.5	28.6	28.1	26.3	23.4	24.6	16.1 (17.5)
建設	39.8	39.6	40.1	37.0	32.2	32.5	28.3 (28.9)
製造	13.2	13.7	10.3	9.6	9.3	6.7	7.5 (5.9)
卸売	38.4	38.4	39.9	36.7	37.1	32.5	7.1 (15.2)
小売	37.5	30.4	29.2	31.1	26.9	30.3	16.5 (21.7)
サービス	31.7	31.5	32.8	27.2	23.5	28.2	20.2 (18.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

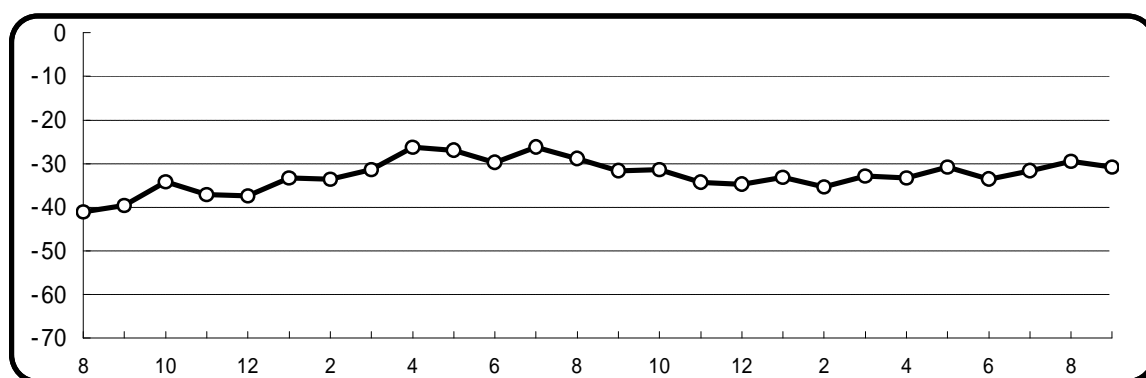
採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造で縮小したものの、他の3業種で拡大したため、全産業合計の採算D I は1.3ポイント拡大して30.8となり、3カ月ぶりに拡大した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が22.3と、昨年同時期の先行き見通し(21.5)に比べて悪化している。

採算D I (前年同月比)の推移

	17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	33.3	30.8	33.5	31.6	29.5	30.8	22.3 (21.5)
建設	50.0	44.4	50.0	47.3	42.8	42.6	37.9 (38.1)
製造	27.1	25.2	27.1	27.5	24.6	23.5	17.6 (15.0)
卸売	30.5	30.2	32.9	29.6	30.6	33.1	18.7 (17.2)
小売	32.4	27.7	27.1	27.1	25.7	29.8	17.3 (18.3)
サービス	31.7	32.0	36.9	32.4	30.7	31.3	24.5 (23.3)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	23.6	21.8	22.4	20.7	19.2	19.6	15.7 (19.3)
建設	39.7	39.2	37.8	37.9	31.2	30.8	30.3 (33.5)
製造	20.0	16.8	16.8	17.8	17.7	17.5	14.5 (15.0)
卸売	19.9	17.7	16.5	19.6	13.3	17.7	9.5 (11.4)
小売	19.7	18.4	18.1	16.4	14.5	16.2	12.1 (17.6)
サービス	22.4	20.3	24.4	16.3	20.1	18.3	13.9 (19.5)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造、サービスで悪化超感が弱まったものの、他の2業種で強まり、全産業合計でも3カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	19.3	19.6	16.9	17.3	17.2	19.5	18.5 (14.7)
建設	26.4	32.0	25.5	27.3	23.3	28.4	27.8 (25.0)
製造	36.9	34.6	31.8	31.0	33.5	35.0	28.6 (26.5)
卸売	14.6	19.0	14.6	16.0	12.9	14.7	14.8 (17.8)
小売	5.6	5.9	3.9	5.1	4.8	8.4	11.1 (3.3)
サービス	14.2	12.5	12.1	11.6	12.6	12.2	12.1 (7.4)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】サービスを除く4業種で上昇超感が強まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】卸売を除く4業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	6.8	5.0	5.2	4.4	3.7	3.8	6.0 (6.8)
建設	22.9	23.1	19.9	20.2	18.6	17.4	17.6 (15.8)
製造	8.3	5.3	4.3	3.5	5.8	5.1	8.2 (7.5)
卸売	9.8	8.8	12.8	5.3	3.6	3.8	5.2 (9.2)
小売	0.6	2.2	3.6	0.2	3.0	3.5	0.2 (5.6)
サービス	2.5	0.2	3.9	0.5	0.2	2.1	3.0 (0.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、製造、小売で過剰超感が弱まったものの、他の 2 業種で強まったため、全産業合計でも 3 カ月ぶりに若干強まる。

【先行き見通し D I】建設、製造、サービスで過剰超感が強まったものの、他の 2 業種で弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年9月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共・民間ともに需要が少なく、企業の設備投資の動きも鈍いため、業況は厳しい」(赤穂・一般工事)「受注は前年並みに確保できているものの、仕入コストが高止まりしていることから、依然として採算面では厳しい状況にある」(帯広・家具製造)「生産・売上ともに対前年同月比で下回っており、特に国内販売が不振」(浜松・楽器製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「全体的に荷動きが鈍いうえに量販店が中国製品を取り扱っているため、苦戦している」(四日市・他の卸売)「商店街の通行客数は少し増加しているが、売上には結びついていない感がある」(久留米・商店街)「同じ地域で営業していた大型ホテルの撤退が決まり、業界自体の先行きに不安を感じる」(千葉・旅館)と、厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

回復への動き

一方で、各業種から、業況好調、売上増加、先行きに期待する声も寄せられており、「業況、資金繰りは上向き方向で推移している」(佐野・土木工事)「受注価格値上げが実現し、業況が好転した」(草津・自動車・附属品製造)「木材市場で荷動きが少し活発になってきた。秋の需要増に期待したい」(水俣・製材木製品製造)「小売店の客単価が徐々に上がっている影響を受け、卸売業者も売上が増加し、収支が改善してきた」(福島・農畜産水産物卸売)といったコメントが寄せられている。また、「婦人服を中心に季節物も好調を維持していることから、少しずつではあるが消費が上向きになったと感じている」(金沢・百貨店)「客単価の下落傾向は続いているが、来店者の来店頻度は以前より高まっており、売上も増加傾向にある」(甲府・百貨店)「来客数が多く、売上は比較的好調。ここ数ヶ月値上がり傾向にあった鶏卵の価格も落ち着いてきた」(赤穂・喫茶)との声も寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

各業種から原油価格の高騰等による仕入コスト、輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「原油価格高騰による資材等の値上げの影響を直接受けており、依然として厳しい状態が続いている」(鎌倉・塗装工事)「業況低迷、先行き不安がある中で、原油価格高騰による原材料の仕入コスト、製品の輸送コストの上昇が収益悪化要因となる恐れが出てきた」(さいたま・ブリキ缶等製造)「原油価格高騰による原材料の値上がりが続いており、納品先と納入価格の値上げ交渉をしているが、認めてもらえない」(大津・計量器測定器等製造)という声が寄せられている。また、小売、サービスからは「原油価格高騰の影響を受けて包装材の仕入コストが上昇しており、採算が悪化する懸念が出てきた」(札幌・百貨店)「軽油価格の上昇が止まらず、荷主との運賃値上げ交渉も苦戦を強いられている」(石岡・その他サービス)というコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
17年	7月	悪化への懸念	回復への動き	仕入コスト上昇
	8月	悪化への懸念	回復への動き	仕入コスト上昇
	9月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは3カ月連続で縮小した。「個人住宅の需要が旺盛であり、今後、業績が好調な民間企業の建設投資も期待」(一般工事)「民間工事が増加傾向に転じた」(土木工事)との声がある一方、「全体的な仕事量が不足しており、厳しい状態が続いている」(建築工事)「公共事業の発注も僅かで、業者間の過当競争により厳しい状況が続いており、業況は好転していない」(管工事)「今後、原油価格高騰の建築資材価格に対する影響が心配される」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは4カ月連続、採算D Iは2カ月連続で縮小した。「売上が好調に推移しており、仕入コスト上昇分も売上増加により吸収できる見通し」(金属加工機械製造)「赤字企業の割合が減少する一方で、黒字企業の割合が増加しており、中小零細企業にも大企業の好況ぶりが波及している」(鉄素形材製造)との声がある一方、「小売店の廃業や売上減少の影響を受けて受注量が減少しており、大型店からの受注量もそれを補うほどは増えていない」(パン・菓子製造)、「製造コストのうち大きな比重を占める燃料費の高騰により、出荷量増加が収益増加に結びつかず厳しい状況にある」(他の窯業・土石製造)「業況は総体的に安定しているが、収益は依然として厳しい状況にある」(一般産業用機械製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月連続で拡大した。「食品を中心に売上が伸びると予想している」(各種商品卸売)「愛・地球博」の盛況で隣接県は低迷していたが、開催期間の終了が近づき、見通しが少し明るくなってきた」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「消費低迷に加え、原油高騰による仕入コストと輸送コストの上昇により採算が悪化」(各種商品卸売)「荷動きがやや活発になってきたが、収益面では未だ好転せず、厳しい状況に変わりはない」(衣服・日用品卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「今月中旬までは昨年の売上高を上回っており、後半の売上に期待している」(百貨店)「夏の需要は低迷していたが、秋に入り、今後の売上に期待」(商店街)との声がある一方、「原油価格の高騰は包装資材の仕入コスト上昇につながり、採算を悪化させる要因となるため、今後の原油価格の動向が懸念される」(百貨店)「来客数は横ばいながら、消費者の財布の紐は固いため、客単価が低下し売上が減少している」(商店街)「個人消費に上昇の兆しは感じられず、むしろ来店客数の減少などにより、業況はさらに悪化している」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iともに3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「愛・地球博」が終了し、これから多客期に向かうため、先行きは現在より好転する見込み」(旅館)、「台風災害関連工事が行われているため、工事関連車両の整備が好調」(自動車整備)との声がある一方、「長引く景気の低迷から固定客の大半を占める中高年齢層の財布の紐は固く、前年同月と比べ、売上、来店客数ともに減少している」(バー・キャバレー等)「軽油価格高騰により、業況は依然として厳しい」(運送業)「銭湯の湯を沸かす燃料の仕入コストが上昇しており、厳しい状況」(公衆浴場)「今月の来店者数は例年並みであったが、個人客中心のため客単価が低く、売上は伸びなかった」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、関東、近畿でマイナス幅が縮小したが、他の6ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも3カ月ぶりに拡大した。

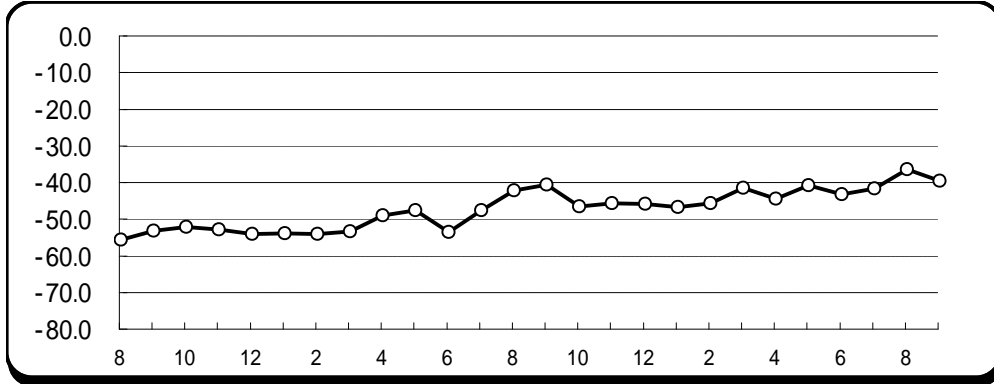
ブロック別の向こう3カ月(10月~12月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道、東北、北陸信越、近畿で縮小したものの、他の5ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

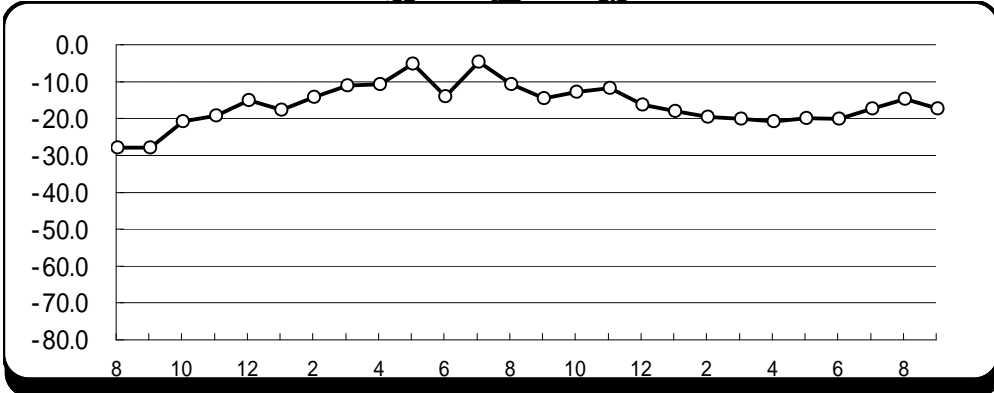
	17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全 国	35.3	30.9	33.2	32.4	28.9	30.8	24.4 (23.2)
北海道	35.7	36.4	32.4	31.4	32.3	36.0	27.0 (28.7)
東 北	42.9	37.7	32.7	37.1	30.7	30.9	31.6 (37.3)
北陸信越	28.2	27.6	36.9	25.1	26.2	24.1	20.0 (31.6)
関 東	36.0	32.8	33.8	29.5	29.0	28.5	16.7 (16.5)
東 海	29.7	20.1	26.1	30.2	23.8	27.8	25.6 (18.0)
近 畿	38.6	36.0	35.8	40.7	31.7	28.9	23.7 (24.2)
中 国	28.9	32.9	30.3	32.9	29.2	37.2	34.8 (26.5)
四 国	37.5	25.9	40.8	37.4	33.8	40.1	33.3 (20.6)
九 州	37.5	27.0	28.9	29.4	24.4	32.8	24.6 (17.8)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

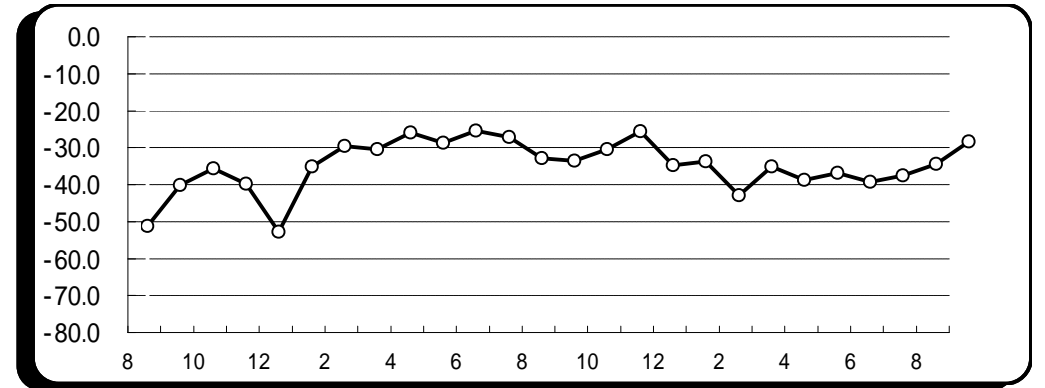
建設業



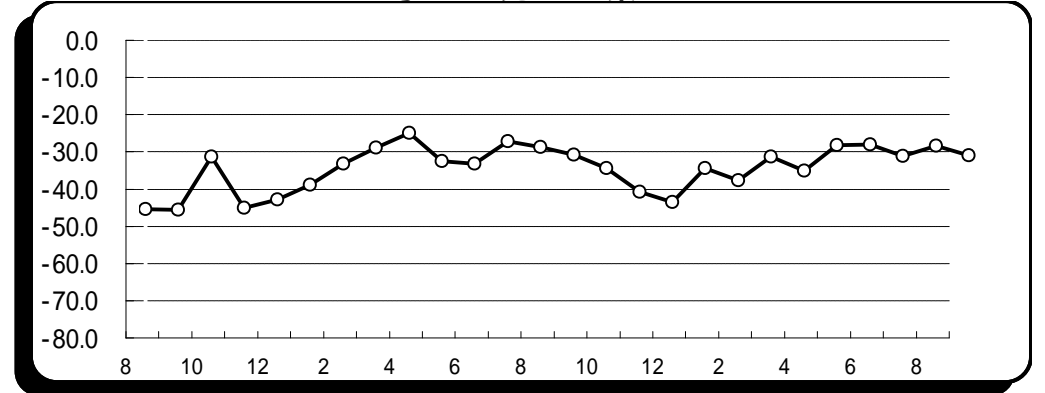
製造業



卸売業



小売業



サービス業

